

官民で泡盛輸出強化

プロジェクト発足 5年後に3倍目指す

官民が一体となって泡盛の海外輸出を進める「琉球泡盛



プロジェクト」が29日、立ち上がった。輸出拡大に向けた情報収集から、海外

での展示会などへの出展を通して認知度を高め、輸出強化につなげる。2017年は33キリが見込まれる泡盛の輸出量を、3年後の20年には70キリと倍以上に増やし、22年に

琉球泡盛海外輸出プロジェクトの設立を発表する(左から)小泉武夫会長、宮腰光寛顧問、玉那覇美佐子副会長。29日、沖縄総合事務局

は3倍以上の100キリまで伸ばす目標を掲げる。

泡盛の出荷量は12年連続で減少しているが、輸出は増加傾向にあることに着目。泡盛業界をはじめ、国や県、小売業界、観光団体などが幅広く連携し、輸出促進に向けた情報収集や普及活動を展開する。

この日、第1回会合が、那覇市の沖縄総合事務局であり、会長に東京農業大学名誉教授の小泉武夫氏、副会長は県酒造組合会長の玉那覇美佐子氏、顧問には総理大臣補佐

官の宮腰光寛衆院議員が就いた。

在外公館などを活用したPRイベントや海外の大型展示商談会への出展、海外プロモーションに関する調査事業などの実施を想定。3月上旬の

第2回会合で具体的な取り組みや行動計画を策定する。

2月下旬にはシンガポールで試飲会などのPRイベントを予定するほか、4月14日にプロジェクト設立記念イベントを那覇市内で開く。

小泉会長は「20年の東京オリンピックを控え、海外に泡盛をPRする絶好のチャンス。世界の名酒に負けない泡盛の魅力の世界へ発信していく」と話した。

16年に輸出を行った県内酒造所は20社。輸出量は約37キリで、日本産輸出酒類に占める割合は0.2%。上位の輸出国・地域の割合は香港31.2%、アメリカ31.1%、台湾14.2%となっている。

泡盛輸出 3年で倍増

琉球泡盛海外輸出プロジェクト 設立記者会見



政府は29日、県産泡盛の輸出促進につなげようと、官民の連携強化に向けたプロジェクトを立ち上げた。国内の消費後退を受けて出荷が減少傾向にある中、2020年に17年比で輸出量の倍増を目指す。那覇市で同日開かれた初会合で、こうした方針を確認した。

泡盛の輸出促進に向けた官民合同プロジェクトの設立記者会見に出席する宮腰光寛首相補佐官(中央)ら。29日、那覇市

政府後押し、官民計画

酒造組合や県小売酒販組合連合会の幹部ら約30人が参加。17年実績で約33キリだった輸出量を20年には70キリに、22年には100キリにそれぞれ拡大するのが目標だ。県酒造組合によると、輸出先は香港、米国、台湾などが上位を占めるという。

出席者からは、輸出拡大には海外の消費者の嗜好に合わせた工夫が必要といった指摘が出た。政府は19年までに農林水産物・食品の輸出額を1兆円に増やす目標を掲げており、宮腰光寛首相補佐官は会合後「泡盛輸出を(国として)積極的に後押ししたい」と述べた。